

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」を通して生徒の資質・能力を育み、生涯にわたり探究を続ける未来の創り手を育てる。 ②すべての教科・科目で授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 ③知・徳・体にわたる「生きる力」を育む教育課程を編成する。	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、組織的な授業研究に取り組む。 ③豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立を目指した教育課程を編成し、適切な運用を行う。	①授業研究部会を中心に、校内研修等で、学びの見通しを持てる授業構成を目指す等、組織的な授業改善やユニバーサルデザイン化を進める。「総合的な探究の時間」において課題解決力や表現力を育む主体的な活動を念頭に置いた、3年間を見通したカリキュラムを作成する。 ③R8年度入学生に向けた新教育課程の適切な運用に向けて選択科目等の整理を行う。	①classi等の保護者アンケート結果も参考に、学校全体で組織的な授業研究を計画し、成果のまとめ、振り返り等を実施したか。「総合的な探究の時間」においては、昨年度の1学年に引き続き、2学年のカリキュラムを作成することができたか。 ③新学習指導要領に則り、高等学校3年間を見通した教育課程を編成することができたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①一人ひとりの心と体の成長に配慮し、他人も自分も大切にできる思い合う態度を育てる。 ②対話や協働を通し、生徒同士が相互理解を深める、インクルーシブな学校づくりに取り組む。 ③学校行事、部活動等の生徒会活動を活性化し、生徒の主体性・創造性を育む。	②積極的なコミュニケーション活動の場を増やし、生徒同士の理解を深める。 ③学校行事等の円滑な企画・運営と生徒会活動活性化にむけた生徒の主体的な取り組みを支援する。	②休み時間や放課後など授業時間以外でリソースルームを活用し、生徒同士の交流の場を増やす。 ③学校行事や委員会活動等で生徒が中心となって組織的に企画・運営に携わる機会を増やす。	②生徒同士の交流の場としてのリソースルームがどれくらいの頻度で活用することができたか ③生徒が主体的に生徒会活動に取り組む場面が見られたか。生徒の創造性や協働性を発揮する行事等が実施できたか。					
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの社会的・職業的な自立に向けた進路実現を目指したキャリア教育を行う。 ②インターンシップ等体験的な学習活動を充実させ、組織的な進路指導や支援に取り組む。	①生徒自らが、適性を探り、夢や希望を実現するための目標を立てさせる。また、あらゆる機会を捉えてその達成方法の支援を行う。 ②生徒の進路実現に向けて、系統的で計画的な支援を行う。	①授業やホームルーム活動等を通じて生徒を支援する。あわせて学習ツールの利用を促進し、将来の自らの夢の実現を支援する。 ②生徒自身が、インターンシップ等の体験を通し、社会的なニーズを踏まえ、進路実現に向かうように、あらゆる機会を捉え、きめ細かく支援する。	①学習ツール等を利用し、自分の夢や希望をしっかりと持ち、進路実現へ自発的に動き出せるよう支援できたか。 ②生徒が希望する進路を実現するために自分の行動や考えをまとめることの必要性を意識するように支援ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○保護者や地域と連携し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	①ホームページや学校説明会などの広報活動において、本校の特色や魅力、幅広い教育活動を迅速かつ的確に発信する。 ②生徒が主体的に取り組めるような地域貢献活動の実施を目指す。	①ホームページの内容を精選し、必要な情報を適宜発信できるようにする。学校説明会等では生徒の主体的な取り組みや成果が伝わるように内容の充実を図る。 ②地域関係団体との連絡を密に行い、安心・安全に配慮しながら貢献活動への積極的な参加を促す。	①広報委員と連携をとりながら迅速かつ適切にホームページの内容更新を行うことができたか。また、本校の特色や魅力、幅広い教育活動を効果的に伝える学校説明会等が実施できたか。 ②地域関係団体と連携する取り組みに生徒が積極的に参加したか。					
5	学校管理 学校運営	①誰もが安全・安心して学習活動等に取り組める教育環境を整備する。 ②ワークライフバランスの実現のため教員の働き方改革を図る。	①生徒も教職員も教育活動がしやすい環境を整備し、必要な各種改修工事を進める。 ②ワークライフバランスを意識した働き方を進め、職員のコンプライアンス意識を高める。	①日々の清掃活動を充実させるとともに、老朽化施設等の点検を着実にを行い、必要な更新を行う。 ②外部人材の活用や職員の意識改革、業務の見直し等により、時間外在校時間を縮減する。事故不祥事発生の要因について職員間の情報共有を図り、風通しのよい職場環境の整備に努める。	①清掃状況の確認および危険箇所、老朽化箇所等の早期発見と適切な対応ができたか。 ②効果的な研修や職員への言葉掛けを実施することができたか。 ②職員の時間在校時間の縮減ができたか。					